

コラム

2007/02 (8)

こんにちは。副園長の佐藤です。当「コラム」も、暫く出せずにおりましたが、漸く発行にこぎ着けました。しかも実は、今年度最終回なのです。よろしくお付き合い下さい。

さて現在私の末の娘は1才半くらいですが、甘えん坊のようで、しょっちゅうワーワー泣いて自分の意志を表現します。彼女以外は家族全員、言葉の通じるメンバーですから、こちらも思わず「ちゃんと言ってよ!」と言いたくなりますが無理な話。大抵は妻や上の子たちが何とかしてくれますが、私にお鉢が回ってくること(1割程度)もあります。

そんな経緯ですから、結構激しく泣いているケースが多いのです。まず第一にすることは…オムツのチェックです。大抵はクリアーされていますが、時には重いこともあります。その場合は交換すればまず、泣きやんでくれます。これで済めば一安心。

次の手段は抱っこ。視点が変わって気分も変わるかな…と思うのですが、相手は大抵泣いているので、目をつぶっています。で、揺ります。この間気づいたのですが、**相手が興奮している時は、結構速いテンポで揺すったり歩いたりすると良いんですね。**泣き声のテンポに合わせて歩いたりするのも、かなり効きます。耳元で歌をうたう時も、「落ち着いた、ゆったりとした」ものより、元気で明るいものの方が早く落ち着くようです。

3人目にして漸くこれだけの事に気づきました。最初の子の時はひたすら無言で廊下を往復したり、驚かそうと放り上げたり、うるさくて仕方ないのでベランダへ連れ出し(真夜中です)たり…スマヌ娘よ。

皆様のお家でも、恐らく色々な努力というか、工夫というか、戦いと言うか…が繰り広げられてきたと思います。でも、この対処の順番は、そんなに外れていないのではないか、と思うに至りました。

川合月海先生(故人)がおっしゃるのには、「オムツ、濡れたオムツの不快感は、相当なものだ。自分で試してみたけれど、不快感でろくに仕事が出来なかった」そうです。ご自身で実験されたんだ…。スゴイ方です。続いては、「心の栄養の第一は母親の抱きしめ」。そう、**体の側の不快感は取り除かれても、それが即、心の不快感・不安感も取り除くのではないのですね。**この先生は「人間は、中心に”群れの心”と、その周りに”孤の心”を持っている。集団・帰属欲が満たされないと、思うまま楽しく活動しようとする

る、個性を発揮する心が働かない」と言っています。言うまでもなく最も原始的な集団欲とは、お母さんとの間に形成されるものです。そして、この辺りは実に、1才から3才ごろまでの発達課題なのではないかと思うのです。

どなたか失念してしまったのですが、「お母さんは心の基地」と言った方がありました。けだし名言。**どんなに面白そうな、好奇心をそそられる物事があっても、自分にとってホーム、戻る所がしっかり分かっているなければ、冒険・探検へ出発することすら適いません。**それが確保されているのは最低条件とさえ言えるでしょう。

しかし、どうやって、子どもがそう思い至るのでしょうか。子どもが相手に安心感を抱き、「やってみよう!」と思いつくには、先ほどの「スキンシップ」と「声かけ」（指示ではなくて、相手を大切に思う言葉）、それに笑顔が大切なのではないのでしょうか。

目や耳に訴えることはもちろん大切ですが、**皮膚の感覚は、自律神経や心の状態へ大きく影響を及ぼすそうです。**大人にしても同じですよ。

川合先生の、膨大な実験の結論はこうでした。「息もできないほど、子どもを抱きしめましょう。1回につき8秒ほどが、一番いいようです。ただし1日に1度が限度です。」

これは、親にとっても気持ちのいいものです。子どもの体のやわらかさ、匂いなど、たくさん味わうことができます。それは幸せな経験です。

4月になって幼稚園に行くと、子どもは今までになかったストレスに遭うことでしょう。しかし、「基地に戻れる」と思っている子と、そう思っていない子の間には天地もの開きがあることでしょう。入園前は、この「触れる」というコミュニケーションの量と質を、もう一度見直すよい時期ではないのでしょうか。

今年度、初めての試みとして「コラム」を発行してきました。何か少しでも、子育てのお役に立てたことがあったでしょうか。もしよろしかったら、B5（別紙）のアンケートにご協力下さい。今後に役立てさせていただきたいと思います。少ない経験と拙い文章でしたが、お付き合いいただき本当にありがとうございました。4月からはみんな元気な年少さん。今までよりグンと広い世界で、いろいろな経験をしていって欲しいと願っています。